

# 湖沼の概要

## ○概 要

島根県の概要				
面積	約6,707km <sup>2</sup> (竹島を含む)			
人口	約713千人(平成24年3月)			
世帯数	約278千世帯(平成24年3月)			
湖沼の概要		宍道湖	中海	
面積	79.1km <sup>2</sup>	86.2km <sup>2</sup>		
集水面積	1,318km <sup>2</sup>	2,030km <sup>2</sup>		
貯水量	3.6億m <sup>3</sup>	4.7億m <sup>3</sup>		
最大水深	6.0m	8.4m(人工的くぼ地は含まない)		
平均水深	4.5m	5.4m		
平均水位	H.P.+0.4m	H.P.+0.3m		
特徴	<p>宍道湖は、島根県東部に位置する天然湖で、宍道湖北山県立自然公園の中心として優れた景観をつくりだしています。また宍道湖は、大橋川を介して中海と連なる代表的な汽水湖として知られており、中海と共に中国山地を源とする1級河川斐伊川水系の下流域を構成しています。平成17年11月8日、近接する中海と共にラムサール条約に登録されました。</p> <p>中海は、島根県と鳥取県にまたがる天然湖で、大山隠岐国立公園と隣接して雄大な景観をつくりだしています。中海は宍道湖と同様に汽水湖ですが、境水道を介して日本海とつながっているため、宍道湖に比べて塩分濃度は高くなっています。平成17年11月8日、近接する宍道湖と共にラムサール条約に登録されました。</p>			
下水道施設の概要				
<p>島根県の下水道は、平成23年度時点で2処理区からなる宍道湖流域下水道と7処理区の公共下水道、32処理区の特定環境保全公共下水道とが事業実施中あるいは供用中となっています。宍道湖・中海の流域では、宍道湖流域下水道を中心として12処理区が事業実施中で、概要は以下のとおりです。なお、島根県の汚水処理人口普及率は、平成23年度末で73.4%となっており、全国に比べ大きく遅れています。</p>				
各処理区、単独公共及び単独特定環境保全公共下水道の概要	宍道湖流域下水道		単独公共下水道	単独特定環境保全公共下水道
	東部処理区	西部処理区		
	<p>県内の処理区の中で最も規模が大きく、松江市、安来市を処理区域とし、昭和56年4月から供用を開始しました。東部浄化センターは松江市竹矢町にあり、処理区域内人口は178千人、整備率は平成23年度末で83.3%となっています。</p>	<p>出雲市、松江市の一部を処理区域とし、平成元年1月から供用を開始しました。西部浄化センターは出雲市大社町にあり、日本海へ系外放流しています。処理区域内人口は126千人、整備率は平成23年度末で48.5%となっています。</p>	<p>吉佐処理区(安来市) 供用開始:H23.4 整備率:33.9% 木次・三刀屋処理区(雲南市) 供用開始:H11.4 整備率:95.4% 横田処理区(奥出雲町) 供用開始:H12.4 整備率:93.4%</p>	<p>江島、遅江、馬渡処理区(松江市) 供用開始:H1.7、H4.4、H9.4 整備率:100% 森山処理区(松江市) 供用開始:H23.4 整備率:59.8% 加茂処理区(雲南市) 供用開始:H6.10 整備率:100% 大東処理区(雲南市) 供用開始:H18.10 整備率:78.8% 三成処理区(奥出雲町) 供用開始:H10.4 整備率:100%</p>
特徴	<p>通常の処理方法である標準活性汚泥法では、有機性汚濁物質は90%以上除去できますが、富栄養化の元となる窒素やリンは40%程度しか除去できません。そこで、宍道湖流域下水道東部処理区では、窒素やリンの除去を目的とした高度処理を平成6年度から開始し、さらにリン除去の安定化と再資源化を図るために、造粒脱リン装置を建設し、平成10年から運転しています。</p>			

○宍道湖・中海の主要水質項目の動向

